

01 背景

はじめに岐阜大学工学部と知能科学研究に関わる三つの背景を説明します。

第一に、平成29年4月より知能理工学専攻が大学院自然科学技術研究科の中に修士課程として設置されます。

第二は、未来社会を創造する AI / IoT / ビッグデータ等を牽引する人材育成総合プログラムへの対応です。これは ①初等中等教育段階のプログラミング教育、②高等教育段階の数理・情報教育の強化と数理・情報分野の専門人材の育成強化、③より高度な専門人材の育成として、AI / IoT / ビッグデータ等に関わる世界トップレベル人材の育成という3段階で構成されています。

第三として、岐阜県 IT ものづくり推進ラボへの協力です。経済産業省が実施している「地方版 IoT 推進ラボ」と呼ばれる制度は、地域における IoT プロジェクト創出のための取組を地方版 IoT 推進ラボとして選定し、地域での取組を通じた IoT ビジネスの創出を支援するものです。岐阜県は、「岐阜県 IT ものづくり推進ラボ」の認定を受けて活動をはじめています。岐阜大学はこの取組の中で、支援機関の一つに位置付けられています。

02 目的

目的は、研究の加速、企業ニーズへの対応、専門人材の育成強化の3点です。

(1)研究の加速

関連する分野の研究を加速することにより、学内の共同研究と研究費の獲得につなげることを目指す必要があります。

(2)企業ニーズへの対応

企業のニーズを大学に持ち込んで展開するため、技術相談だけでなく、外部からのデータ分析のニーズに応え、企業との共同研究などにつなげることを目指す必要があります。

(3)専門人材の育成強化

学生の研究力を高めることにより、専門人材の育成を強化する必要があります。研究室間の交流を促進するため、研究会と学生を主とした成果発表会を実施し、研究会は、企業からの参加も認める形で実施します。

03 研究会

深層学習研究会、IoT 知能メカトロ研究会、大規模計算研究会、データサイエンス研究会、数理科学研究会、子供のためのプログラミング研究会などの開設が期待されます。

04 連携

業界団体のイベント、交流会等を利用し、産官学連携推進本部と連携して活動します。

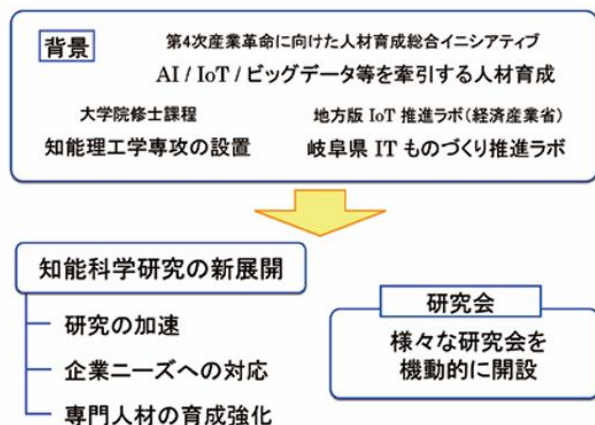


図1 知能科学研究の新展開



速水 悟 教授 (工学部 電気電子・情報工学科)

<参考> AI : Artificial Intelligence人工知能、IoT : Internet of Things もののインターネット